

## 非常勤職員の待遇改善を求める要望書

職員組合では、2023年10月、文京キャンパスに勤務する非常勤職員95人に対しアンケート調査を行い(回答率54.7%)、雇用条件や職務内容等について意見を聞きました。アンケート結果に基づき、下記のとおり要望致します。少なくない数の非常勤職員が、弘前大学の重要な業務を支えています。加えて、人手不足による人材獲得競争も激しくなっています。何卒、早期にご検討、ご対応くださいますようお願い致します。回答は、文書により、なるべく早めにお示しください。

### 【要望項目】

#### 1. 5年雇用上限制度を見直してください

大学事務は特殊な事案が多く単純ではありません。教職員と良好な関係を保ち、業務に慣れ、5年間も務め続けられる人材は大変貴重です。職務態度や出勤日数、スキルが一定の水準に達し且つ本人が希望する場合には、継続雇用を認めてください。アンケートに回答した非常勤職員でも約半数が雇用継続を望んでいます。5年任期制度を固持して節約できる人件費と、仕事に慣れた人材を手放すことによる効率の低下を比べれば、雇用継続した方が大学に有利です。

アンケートにも、「職場でも残ってほしいと思い、本人も残りたいというマッチングが成立しているのに、5年で見送らなければならない人がいる」「弘前大学が大好きで弘前大学のために働きたいと思うのに、5年しか働けない。願わくば5年のしほりなく、働き続けたい」という声などが多数寄せられました。「無期転換ルールが適用されたら雇用期限のない無期転換を希望しますか?」という質問には、54%が希望すると回答しています。今後、人手不足により、人材確保が更に難しくなることは明白です。弘前大学のパフォーマンス維持のためにも、継続して勤務してほしいと思うような人材を逃すべきではないと考えます。ぜひ前向きに検討してください。

#### 2. 非常勤職員にボーナス(賞与)を支給してください

アンケートでは、正職員と同じレベルの仕事をしていると思う」30%、「責任が重く、正職員が行うべき内容と思う」14%という回答がありました。「同一労働同一賃金制度」が導入されて3年が経過しようとしています。非常勤職員でもフルタイム雇用の場合は正職員と同じ時間帯で毎日勤務しています。正職員並みの水準でなくても、ボーナスが支給される同時期に、毎週一定時間以上勤務している非常勤職員にもボーナス(賞与)を支給することを検討してください。

参考までに、本年4月には、自治体で働く非正規職員のボーナスを拡充する(期末手当に加え勤勉手当も支給することができ)改正地方自治法が成立しています。

#### 3. 非常勤職員の有給休暇を増やしてください

非常勤職員でもフルタイム雇用の場合は正職員と同じ時間帯で毎日勤務しています。子育て中の女性も多く、たとえ5年間しか勤務しなくても、その5年間に子どもの病気や学校への対応、介護など様々な事情が生じることは、正職員と変わりません。非常勤職員が一家の収入を支えている場合もあります。雇用期間中に病気になることもあります。年5日以上休めば即収入減となるという現状は厳しいものです。年次休暇、病気休暇、特別休暇について、非常勤職員も正職員と同等の扱いにしてください。参考までに、山口大学の事例を添付いたします。

#### 4. 非常勤職員の給与引き上げについてご検討ください

非常勤職員の給与引き上げについてご検討ください。農場の季節作業員や附属学校の給食の調理員に関しては、その待遇の悪さ故に、既に人材確保が極めて困難な状況となっています。今後、各部署で更に人材確保が難しくなっていくものと思われます。例えば、阪大では、任期付年俸制教職員、任期付付託職員、非常勤職員、非常勤講師の給与の 2.34% 引き上げが行われました。弘前大学におきましても、上記の待遇改善と合わせて非常勤職員の給与引き上げについてご検討ください。

#### 【参考】

- アンケートからは、人手不足を背景として、既に弘前市役所等との人材獲得競争が激しくなっていることが見て取れます。弘前大学では、部署によっては非常勤でありながら正職員が担うような責任が重い職務まで担当する場合があります。ということについて情報が広まっており、今後さらに人手不足に拍車がかかる可能性があります。非常勤の待遇を改善し、職務内容を見直すなどの対応をご検討ください。

以上